

「第73回全国植樹祭いわて2023」の機運醸成を目的に、陸前高田市を
目指して一関市役所を出発するランナー



一関楽走会、 県内愛好者

「第73回全国植樹祭いわて2023応援駅伝」(一関楽走会主催、岩手日日新聞社など後援)は1日、一関市から植樹祭会場となる陸前高田市までの約61・5キロの区間で行われ、県内のマラソン愛好者が本県で49年ぶり2回目の開催となる4日の植樹祭成功を願いながら両市内を走った。

一関地方の愛好者で組織する同会が、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園などで開かれる同祭の機運醸成を狙いに企画。21人が参加した。

一関市役所を出発して主要地方道一関大東線や国道343号を通り、陸前高田市内の東日本大震災津波伝承館に到着するコース。1区間5キロ前後の12区間に分けて代表者が次の区間代表にたすきをつないだ。

一関市役所駐車場で行わ

全国植樹祭 成功願

陸前高田向け応援駅伝

れた出発式では、佐藤東会長が「天候にも恵まれた。みんなで植樹祭を盛り上げられるように張り切って頑

張りましょう」とあいさつ。選手宣誓では会員の小野寺知夏さんが「一関より全国植樹祭いわて2023の開催地高田松原に向かつて、マイペースで楽しくたすきをつなぐ」と意気込みを示した。

会員で第1区走者の菊田和夫さんが同祭の開催をPRするたすきを肩にかけて、数人のランナーと共に駆け出した。

同会事務局長の齋藤祐二さんは「植樹祭の成功とPRへの思いをたすきに乘せてみんなで走った。近年はSDGs(持続可能な開発目標)の関心も高まっており、植樹祭が岩手の林業の振興につながってほしい」と期待する。